

1. 断面に記載の事項は本仕様書によるものとする。

2. 使用材料、強度、材種等

I) 使用コンクリート 4 週圧縮強度 $F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$
但し土間、積コンクリートは $F_c = 135 \text{ kg/cm}^2$
最低使用セメント量は 300 kg/m^3 とする。

躯体コンクリート強度 ($F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$) は 8 月 (打設) から 28 日後により強度補正を要する。

12.1.2 月 $\rightarrow T = 45 \text{ kg/cm}^2$
11.3 月 $\rightarrow T = 30 \text{ kg/cm}^2$
他月 \rightarrow 補正を要しない

II) 所要スラング

箇所	スラング (mm)
基礎、地盤(セト)	18
上部躯体	21

III) 使用鉄筋 J_{IS} SR24 (普通鉄鋼)
 J_{IS} SD30 (異形棒鋼)

3. 地業等

基礎下端 積コンクリート 50%、砂利 50%
地盤梁下端 積コンクリート 50%、砂利 50%
土間 砕石 100%
土間配筋 $\phi 300$ @ 100 (97.30 以上) とし、
の配筋は全て壁地中壁に差込する。

4. 鉄筋継手形式

継手は重なり継手とし、継手長、定着長は
特記を要し、全 $250d$ 以上とする。

5. 壁体に関する配筋

I) 断面に特記なき場合の壁配筋

壁厚	9 寸筋	10 寸筋	11 寸筋
100 (W10)	$\phi 8-200 @ 8$	$\phi 8-200 @ 8$	
120 (W12)	全上	全上	
150 (W15)	$\phi 8-150 @ 8$	$\phi 8-150 @ 8$	
180 (W18)	$\phi 8-200 @ 8$	$\phi 8-200 @ 8$	$\phi 8-1000 @$
200 (W20)	全上	全上	全上
250 (W25)	$\phi 8-150 @ 8$	$\phi 8-150 @ 8$	全上

S: 1/2 グリ配筋 D: 9/2 グリ配筋

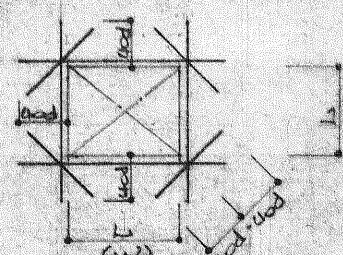
II) 1/2 グリ、腰壁の配筋

特記がなければ下記による。

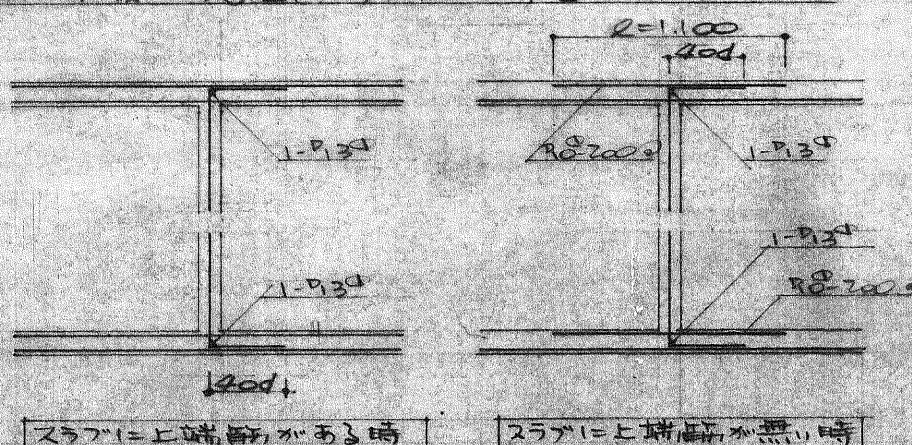
	9 寸筋	10 寸筋
1/2 グリ	$\phi 8-150 @ 15$	$\phi 8-200 @ 15$
W10	$\phi 8-200 @ 15$	$\phi 8-200 @ 15$
W12	$\phi 8-200 @ 15$	$\phi 8-200 @ 15$
W15	$\phi 8-150 @ 15$	$\phi 8-100 @ 15$

III) 壁体内部補強筋

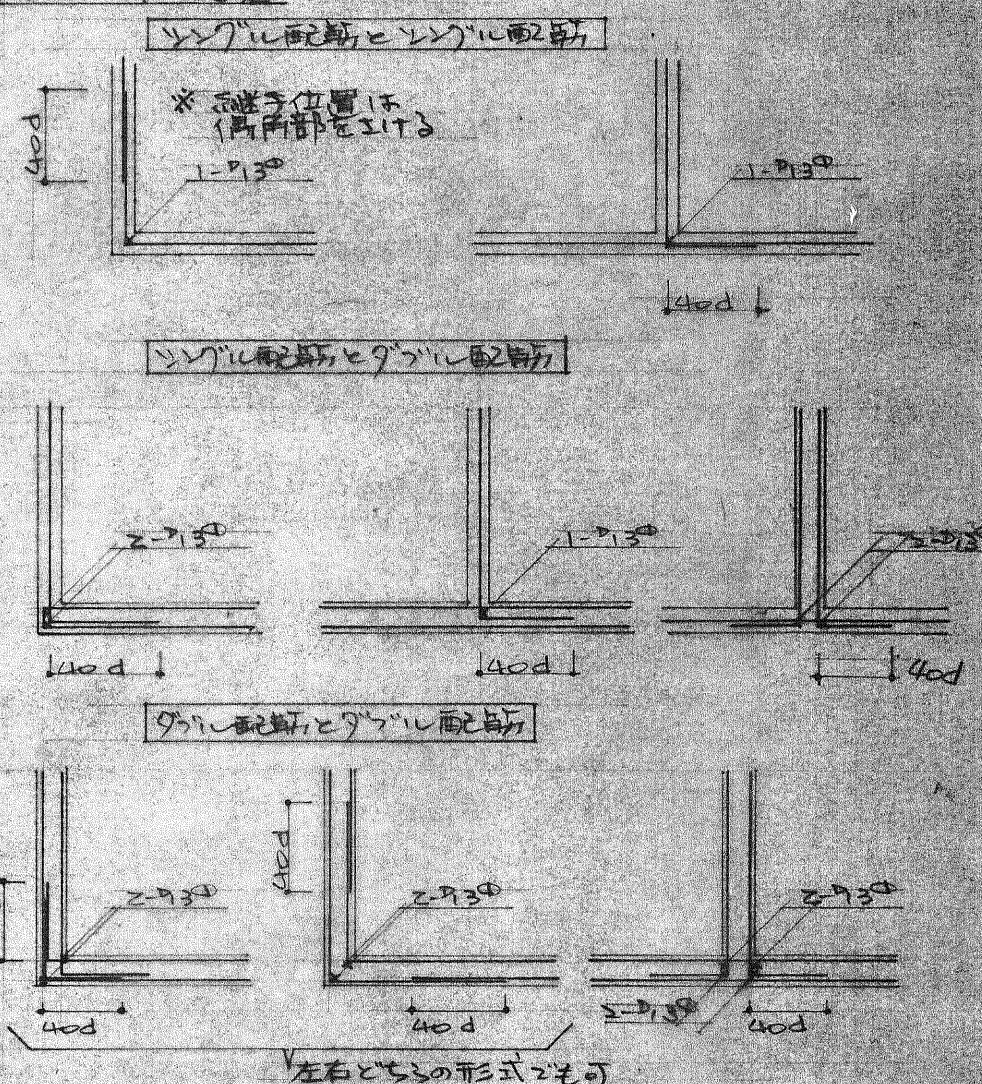
	W10	W12	W15	W18	W20	W25
斜筋	$\phi 6-100 @ 2$	全上	全上	$\phi 6-100 @ 2$	全上	$\phi 6-100 @ 2$
端筋	$\phi 6-100 @ 2$	全上	全上	$\phi 6-100 @ 2$	全上	$\phi 6-100 @ 2$



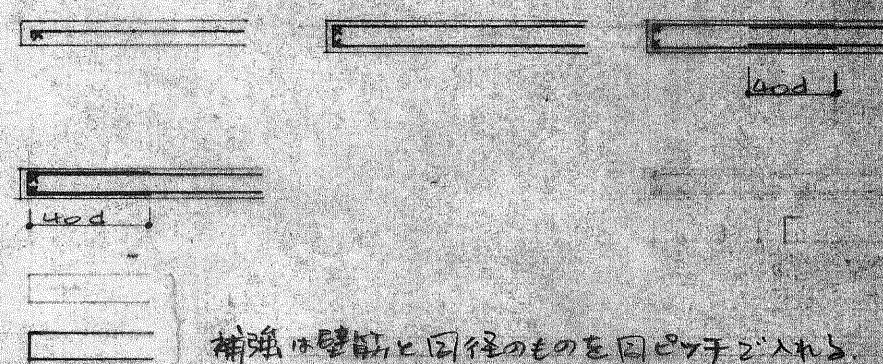
IV) 壁筋の床版への定着 (コンクリートブロック壁の場合も同じ)



V) 壁交差部の配筋

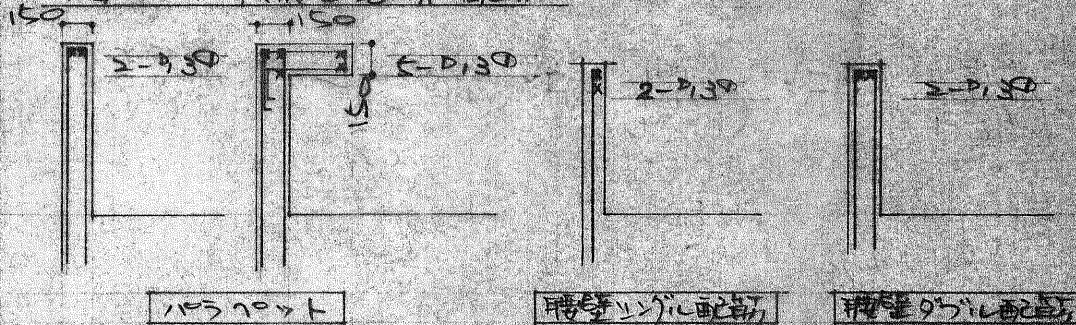


VI) 壁端部の定着

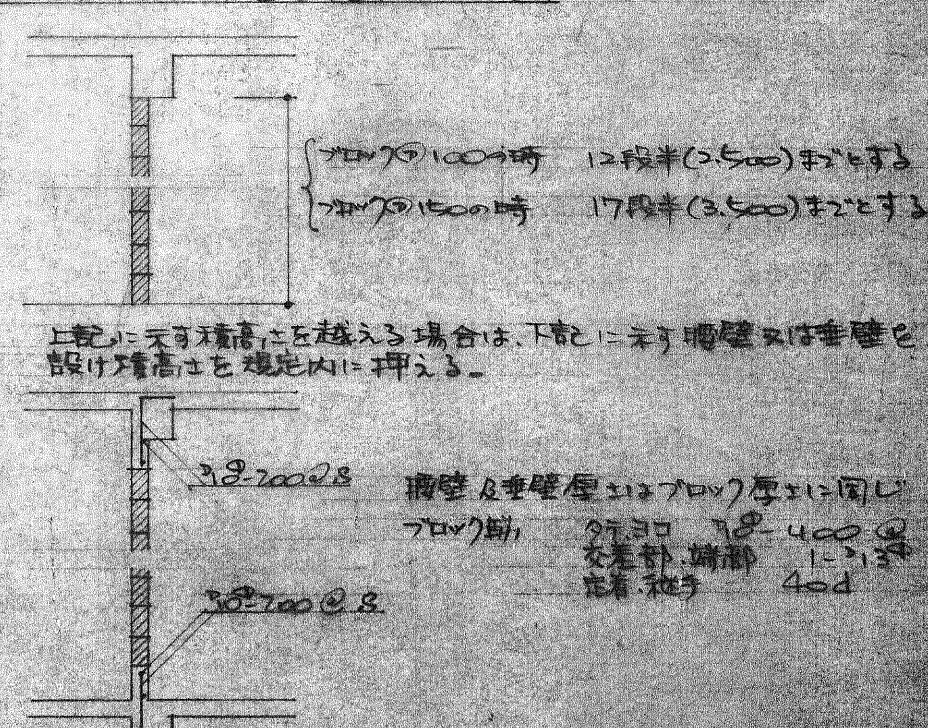


端部処理は上図に示すいずれの工法を採用してもよい

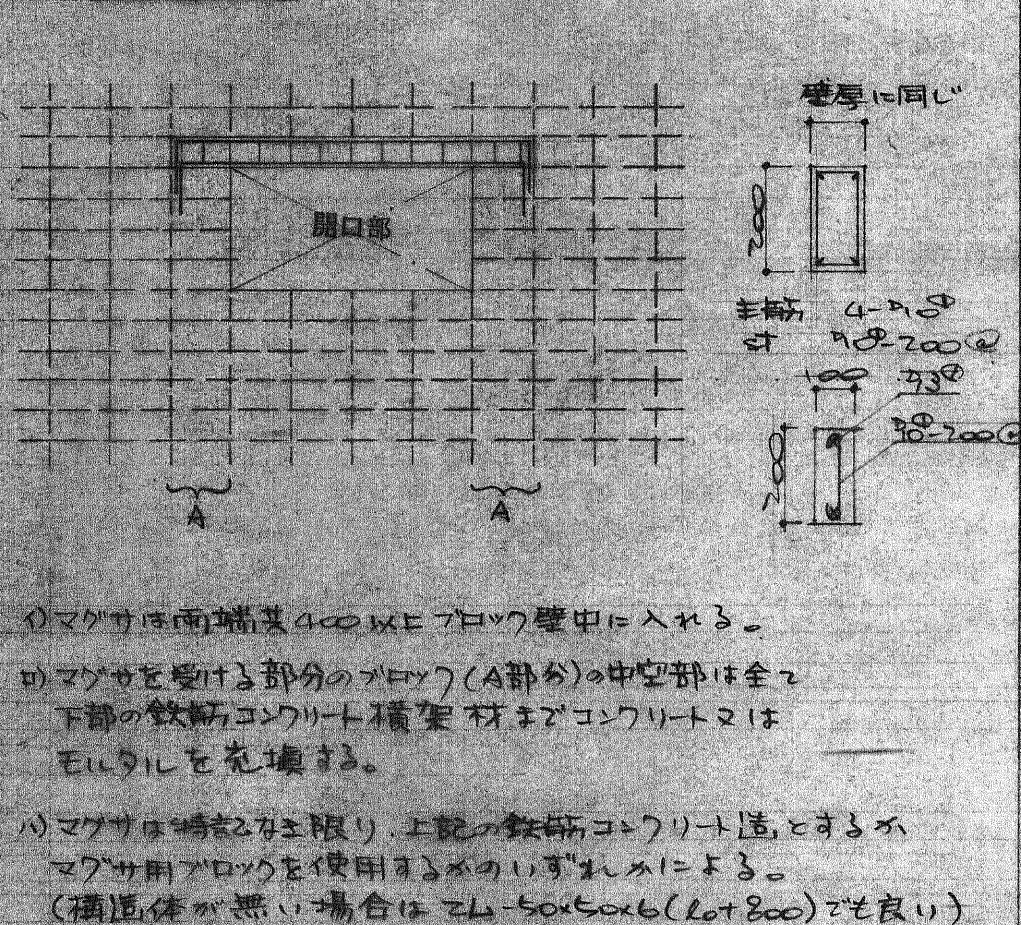
VII) 1/2 グリ、腰壁先端の配筋



VIII) コンクリートブロック壁 (外壁、内仕壁)



開口部マダサ

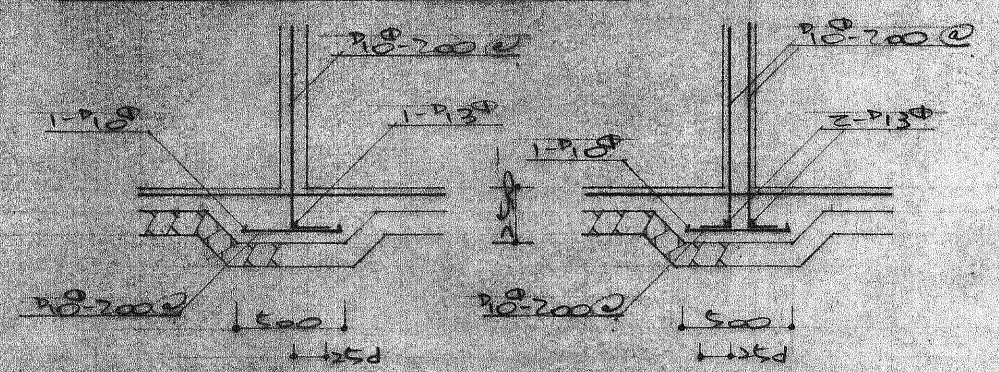


6. 構造体スリブ補強に関する事項

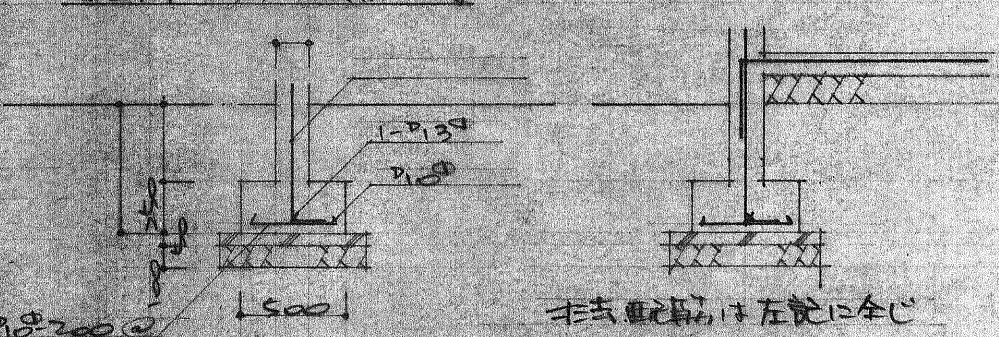
1. 梁、柱、壁、床版の各スリブは現場仮設の承認を得た上、必要最小限のスリブとする。
2. スリブ周辺はスリブ無し場合と同等の強度を有する様な補強を行い、仮設の承認を得た上、施工の事。

7. 基礎に関する配筋

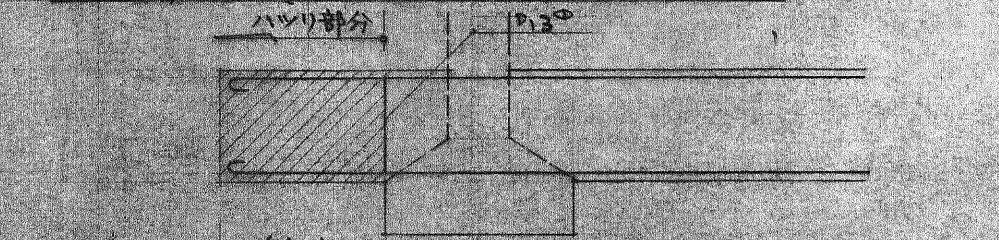
I) RC 壁、土間が土間に直接来る時



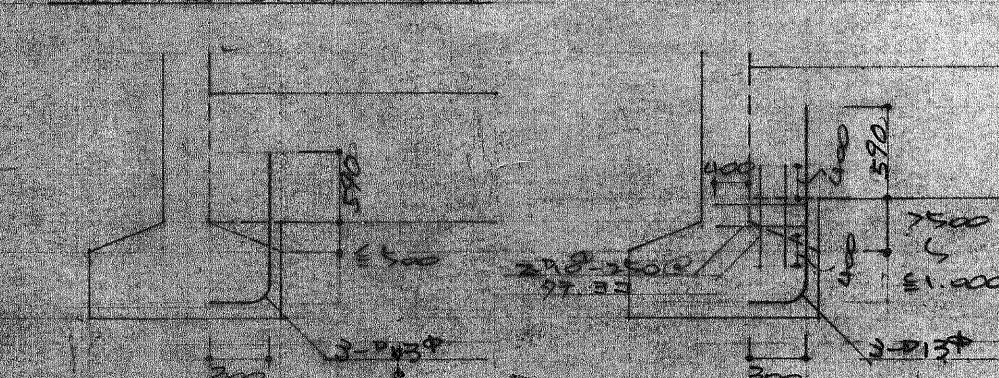
II) 土間コンクリートの無い時



III) 増築用梁 (上階梁、柱、床版増設も同じ)

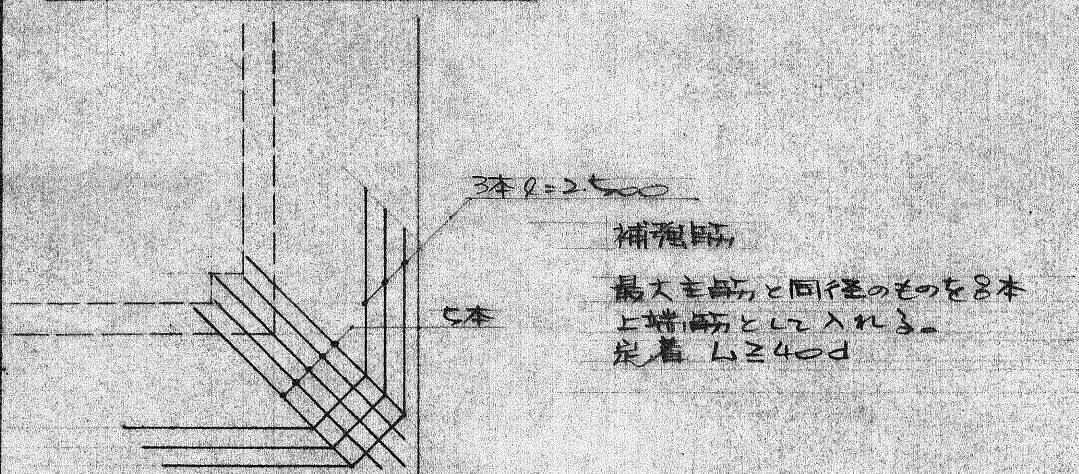


IV) 地中梁接合部の補強

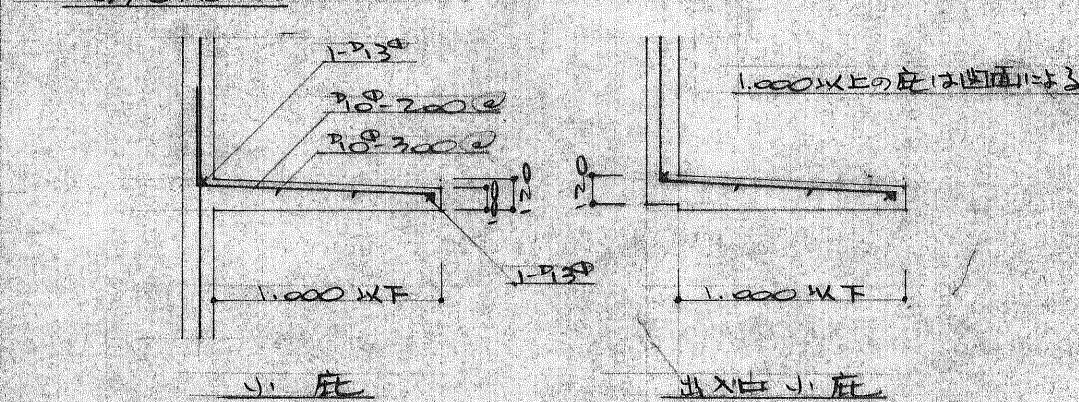


8. 床版に関する配筋

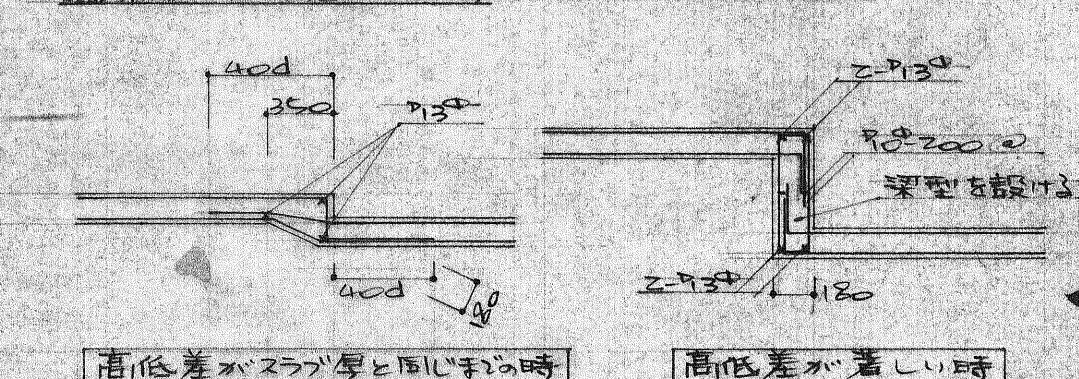
I) 持ち出しスラブ隅部補強



II) 底配筋



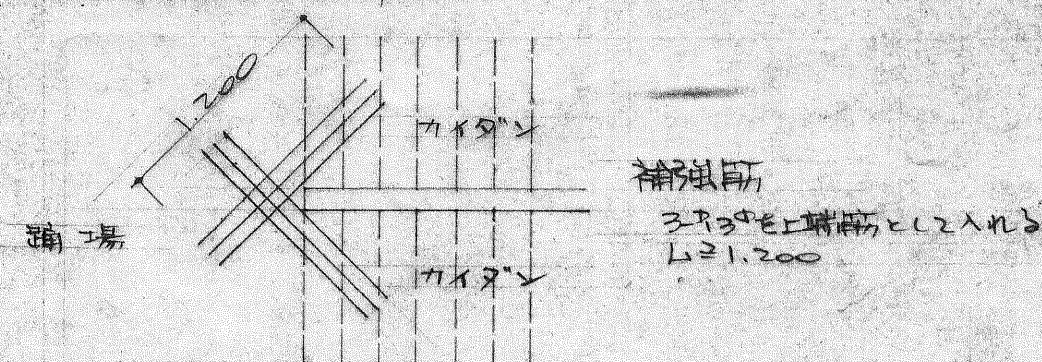
III) 床版に高低差のある時



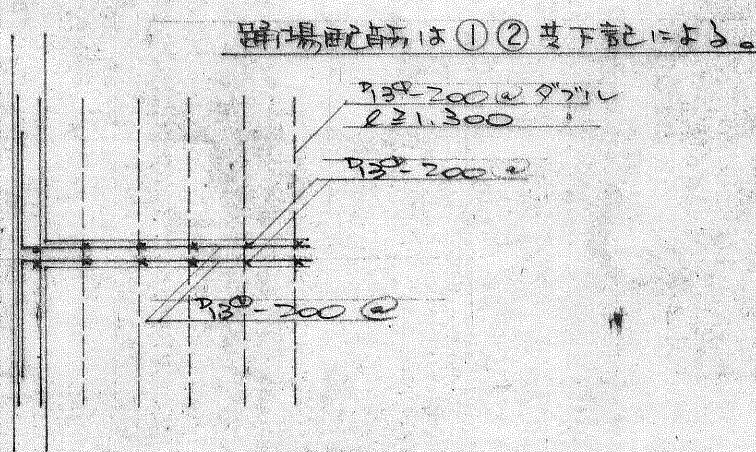
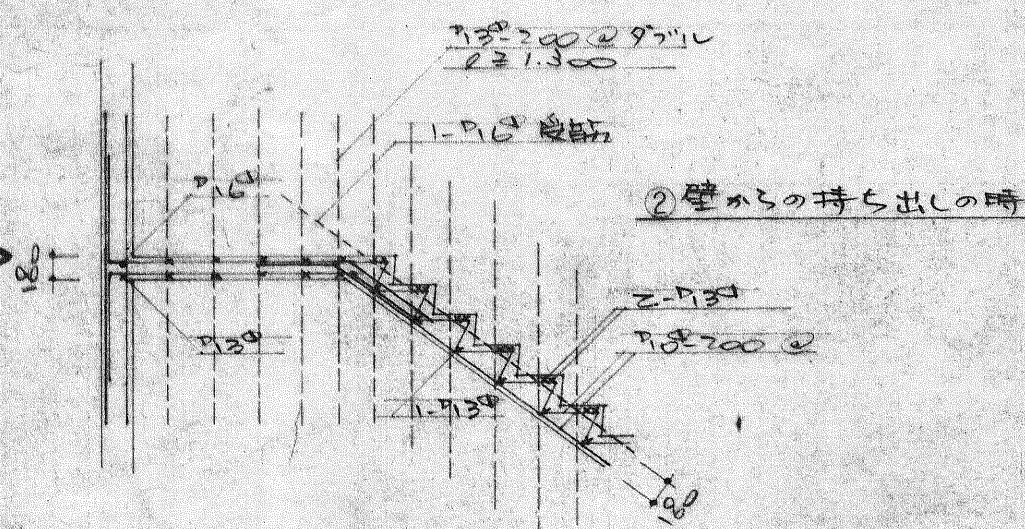
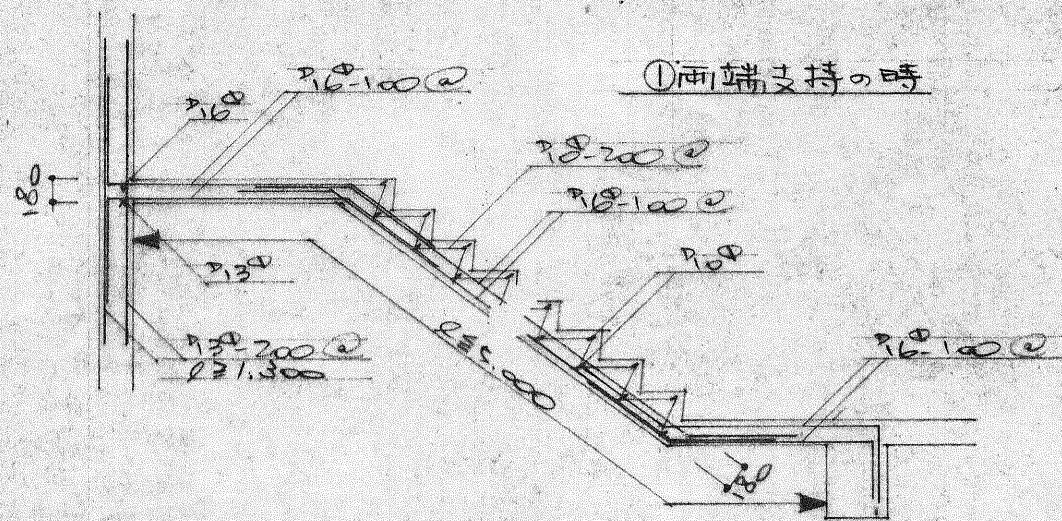
註記

- 差し筋は SD30 を使用しコンクリート打設前に行なう。
- 定着、配列には特に留意する事。
- 差し筋の 2 重継手は原則として認めない。

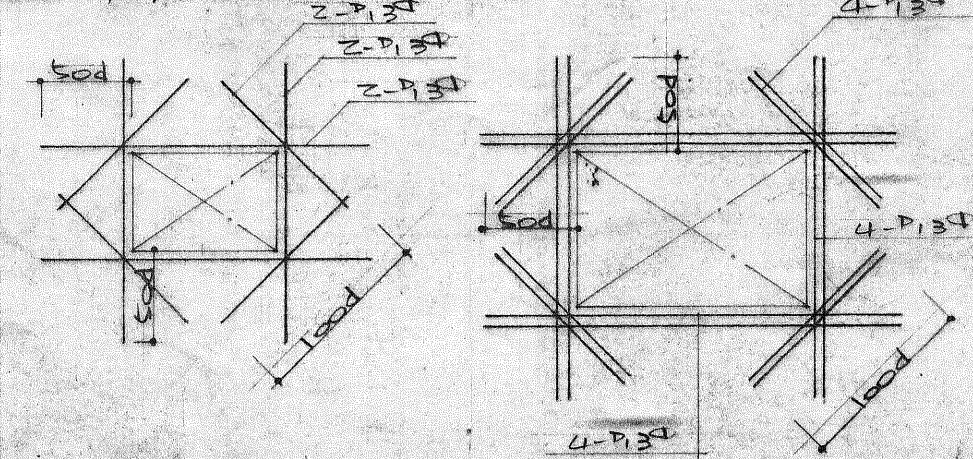
IV) 階段と踊場接合部補強



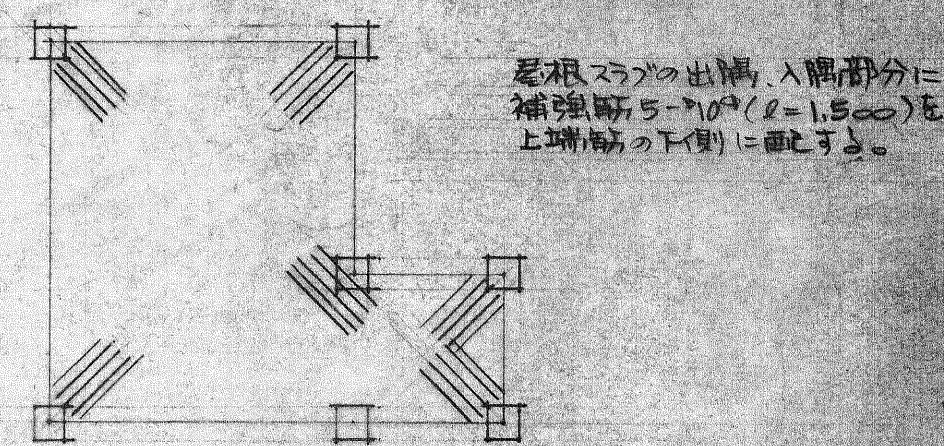
V) 階段配筋 (補強筋はφ200以上可)



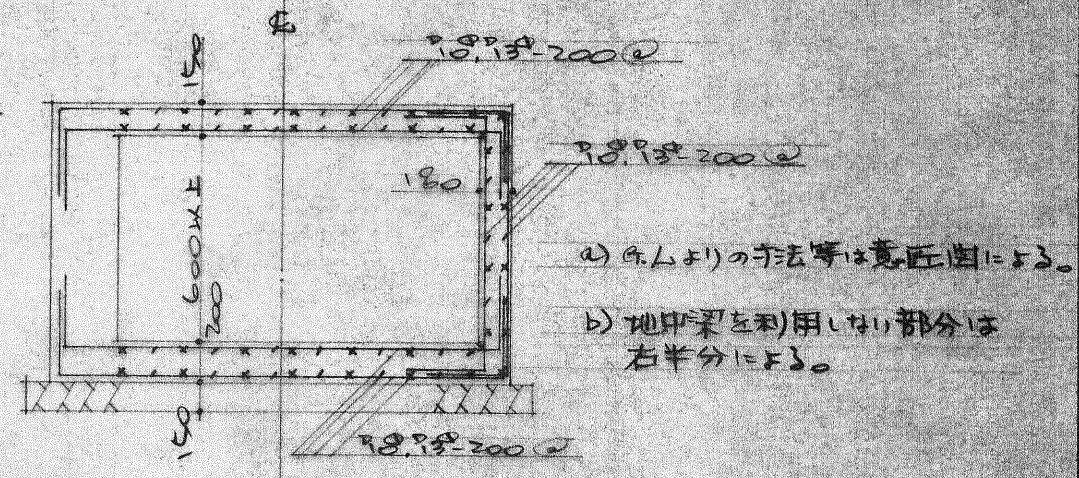
VI) 開口部補強 (便器、トイレ等)



VII) 屋根スラブの補強



9. 便槽の配筋



















10. 型枠の設置期間

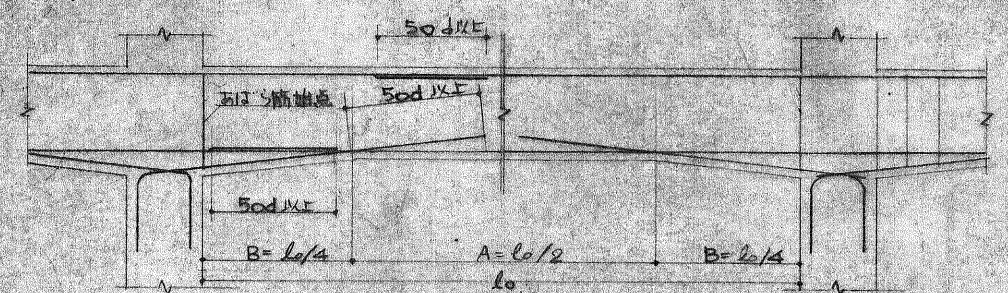
型枠の種類	セキ板	支保工
基礎梁側柱壁	200mm以下	梁下
普通コンクリート	200mm以上	梁下
コンクリートの圧縮強度	50kg/cm ²	50% 80% 100%





註記

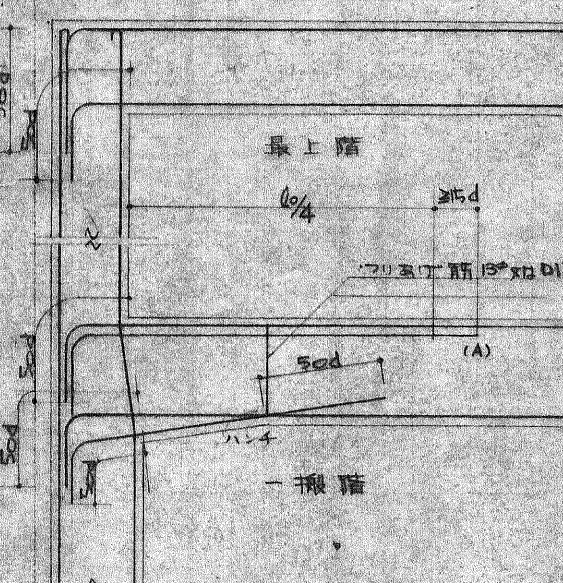
1. 片持梁を支持しスラブは梁の指示による。
 2. セキ板設置期間中の平均気温が10℃より高い場合は上表に示すコンクリートの圧縮強度に補正率を乗ずる。 (セキ板のみ)
 3. 補正率: 50% (10℃以上15℃未満), 80% (15℃以上20℃未満), 100% (20℃以上)

サマエのコンクリ				使用箇所		サマエのコンクリ				使用箇所		
折曲げ部		SR24 SD30 SD35	SD30 SD35	SD40	曲げ 角度	折曲げ部		SR24, SD24 SD30, SD35, SD40	SD30	SD35, SD40	使用箇所	
	D	3d 以上	4d 以上	5d 以上	90° 以下		D	3d 以上	4d 以上		上記5箇所、布筋、 スライダル筋	
	D	3d 以上	4d 以上	11d 12d 14d 以上		底筋の主要筋は16mm (CR16程度)以上の鉄筋		D	5d 以上	5d 以上		15mm以下の底筋筋、 窓筋
	D	3d 以上	4d 以上	11d 12d 以上		13mm以下の鉄筋、並びに おろし筋、帯筋、スライ ダール筋など		D	6d 以上	6d 以上		上記以外の鉄筋で 太さは32mm以下、 変形鉄筋はD25以下
	D	3d 以上	4d 以上	12d 12d 以上		T形又はL形筋は おろし筋		D	8d 以上	8d 以上		上記以外の鉄筋で、 太さは32mm以下、 変形鉄筋はD25以下
	D	3d 以上	4d 以上	8d 8d 以上	90°・135° 筋上の筋		D	8d 以上	8d 以上		上記以外の鉄筋で、 太さは32mm以下、 変形鉄筋はD25以下	
	D	3d 以上	4d 以上	9d 10d 以上								

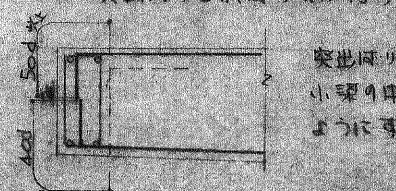
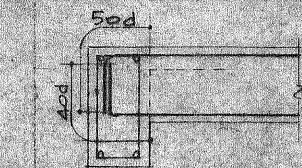
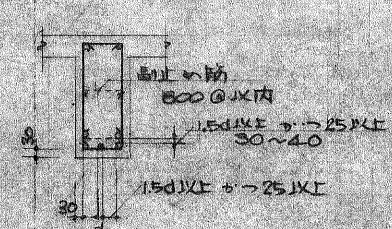
- a) 上端筋 継手中心に、A部以内となくと。
b) 下端筋 継手中心に、B部以内となくと。
c) 折曲り部に 継ぐ場合は 継手中心を折曲部の中心となくと。
d) 継手長さも、全と 50d 以上とする。



- e) 継手位置は柱はりスラブの底角の隅より位置に設ける事。 
- f) 相隣りあった材の継手は右図となる。 
- g) 密着したロカス正接になる時は五趾 ii) による 
- h) 部材の出すみに終る主筋端より 60mm 前 密着はロカス正接 



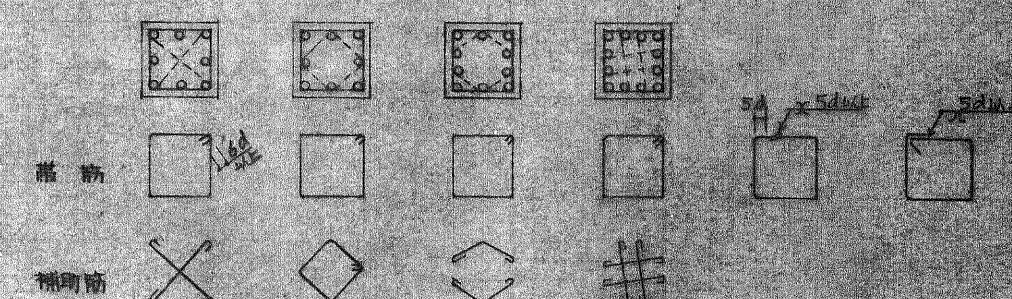
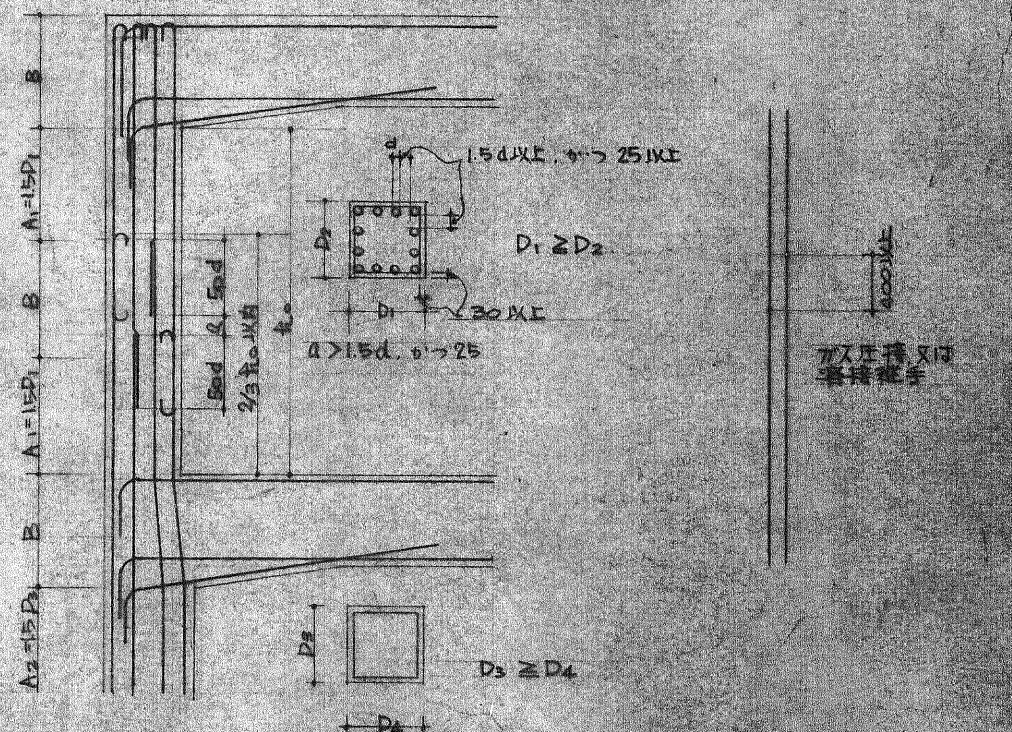
- トッ7°筋の位置
- i) 端部 (左図に表示) $\dots \frac{1}{4} + 15d$ 以上
- ii) 中央部下端 $\dots \frac{1}{2} + 30d$ 以上



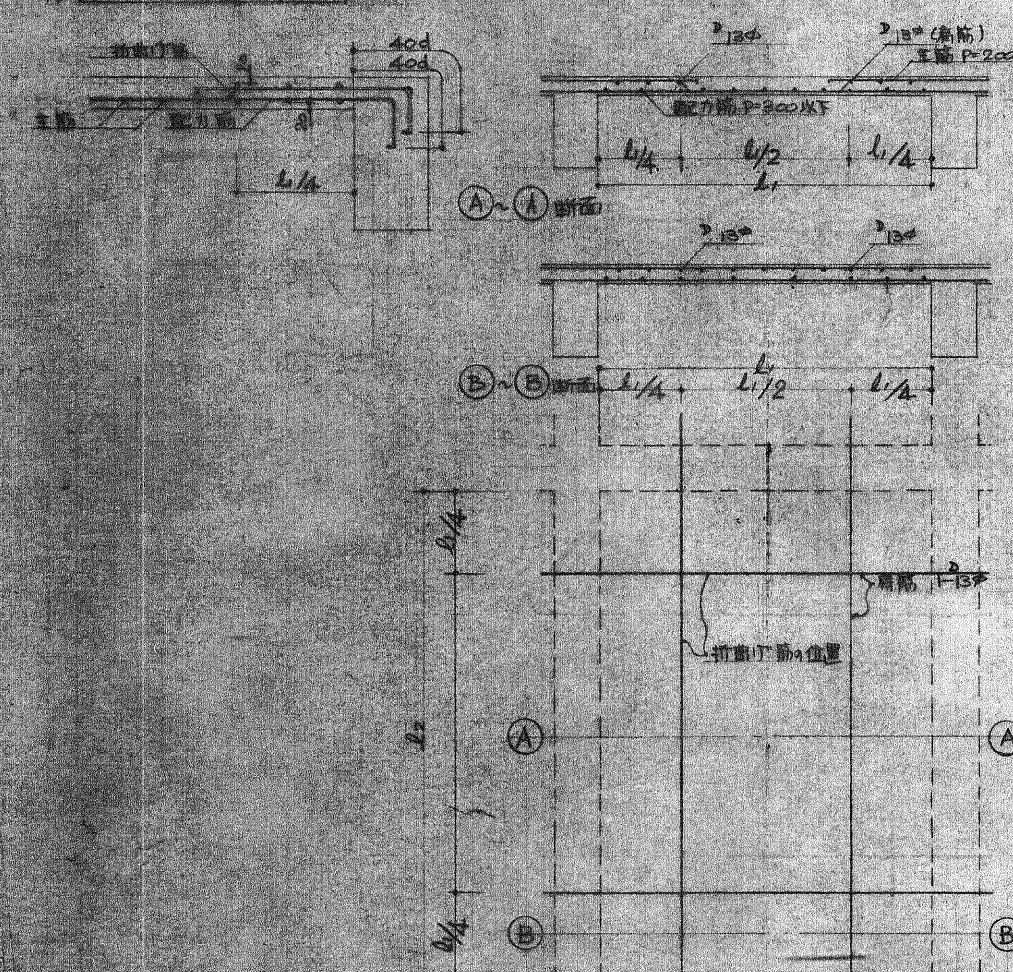
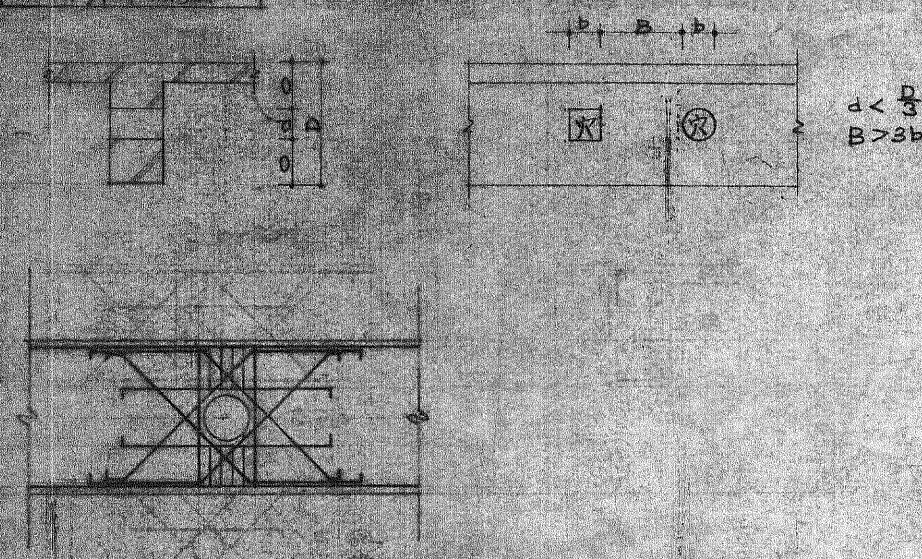
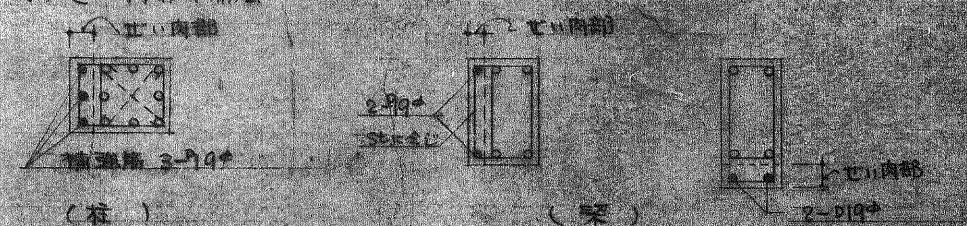
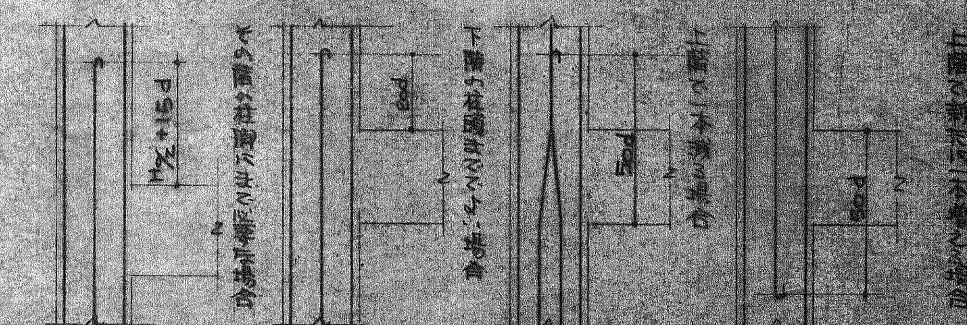
- a) 主筋径は D13、13[#] 以上かつ4本以上。
b) 主筋全断面積は、コンクリート全断面積の0.8%以上。
c) 出する部の鉄筋の継ぎ手より最上隅柱頭にはスクリュー

- ① 断筋の肉質は、Q 字は D10 用 3 場合には、A1、A2 並みの注の上下端は、100% 以下、下下し、B 部は A 部の 1.5 倍とてよい。
- ② 前記の径よりより鉄筋を用いる、またはこれより同径以上の筋を 2 根用いる場合には、200% 以上、範囲で断筋肉質を増大せしむる。
- ③ 断筋比は 0.2% 以上とする。

- a) 継手位置は $2/3 h_0$ 以内にあること
b) 継手長さは全て $50d$ 以上とする。

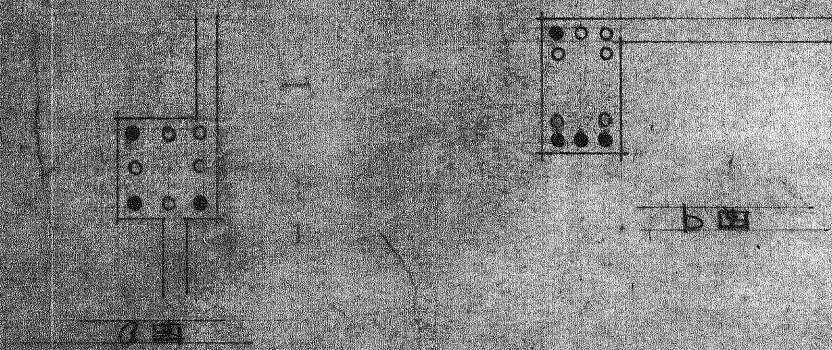


- ・補助筋は帯筋数段目ごと ($\phi 500$ 以内) に入れる。
- ・円錐形でない補助筋のフックの曲率は 135° 以上、全長は $6d$ 以上。



最終金額の未納者には下記の場合にペナルティを設ける

- イ) 柱頭、下脚部が逆り(a樹の●)が最上階の柱頭の場合
 柱頭部の末端部が逆り下倒(b樹の●)にある場合、但し
 1/4中実を除く。



適用範圍	補	進	新	2
$15 \leq d \leq \frac{D}{2}$	料	4-2- π 30		$d+1.1\infty$
	95	2-2- π 30		
	ヨロ	2-2- π 30		$d+1.1\infty$
	半切	3-2- π 30		
$15 \leq d < \frac{D}{2}$	料	4-2- π 160		$d+1.3\infty$
	95	2-2- π 160		
	ヨロ	2-2- π 160		$d+1.3\infty$
	半切	4-2- π 130		

$$15 > d < \frac{D}{15}$$
 は補題 14.1

$d \geq \frac{D}{3}$ の場合は $\frac{D}{3}$ と同様以上とし 詳細は保費の指示を受ける。

孔が円形でない場合は、等面積の円孔に換算して上表を適用する。

補強筋の末端部にはフックを設ける。

[illegible]

海老川老人福祉センター（B型）新築工事

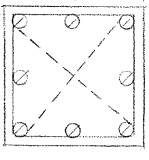
構 造 図		特 記 仕 様	
DATE / /	SCALE /	SHEET NO R-3	

A. S. A. 設 計 事 務 所

ARCHITECTS OF SPATIAL ACCOR TEL22-5797(代)22-5798

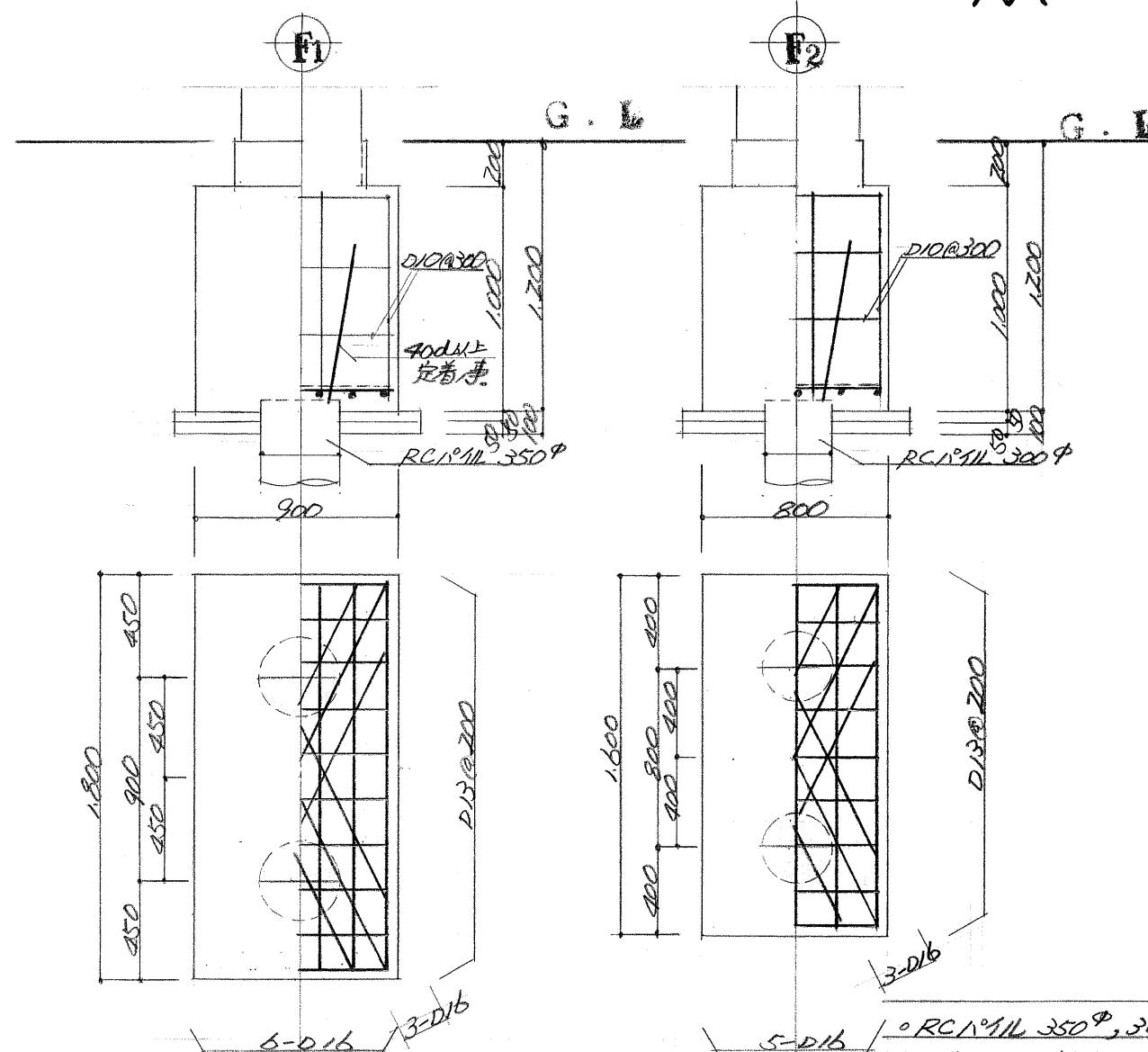
田中健志 DRAWN BY CHECKED BY

柱断面リスト s=1:30

階	材名	C ₁ 1 st
	B × D	550 × 550
1 階	断面	
	主筋	8-φ22 ⁺
	Hoop	φ10 ⁺ @100
	D.Hoop	φ10 ⁺ @500 以内

註記

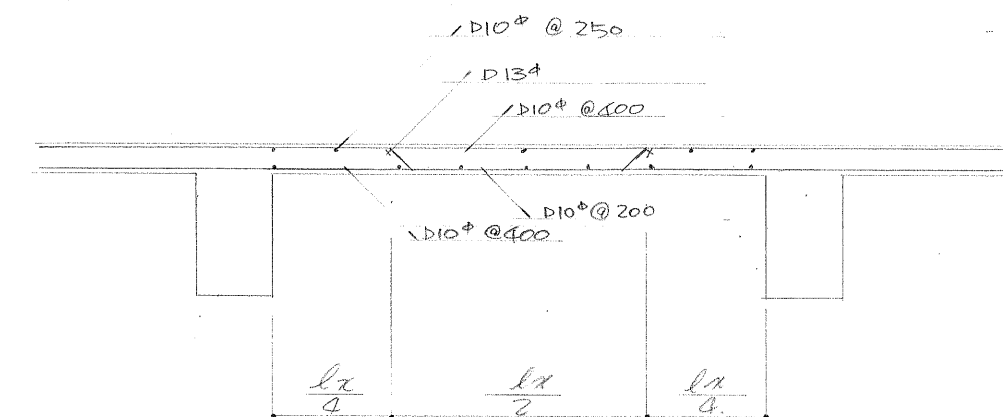
C₁/RFヨリのエニ、部分断面配筋ハ1階ニ全シ。



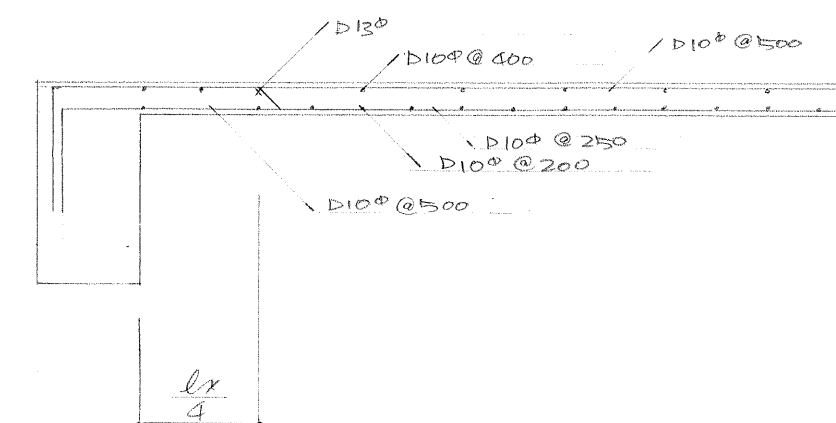
基礎リスト s=1:30

°RC1st 350⁺, 300⁺ (JIS^製)
°工法ハセムシル7連入工法(新
振動無騒音)トスル。
°柱先端ハGL-6.0m トスル。
°

S₁ 配筋図 s=1:30

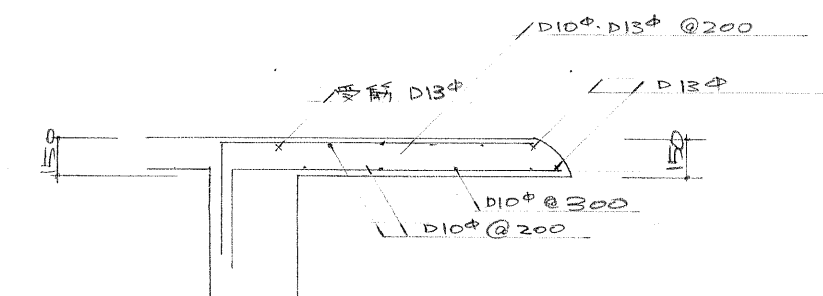


短辺方向

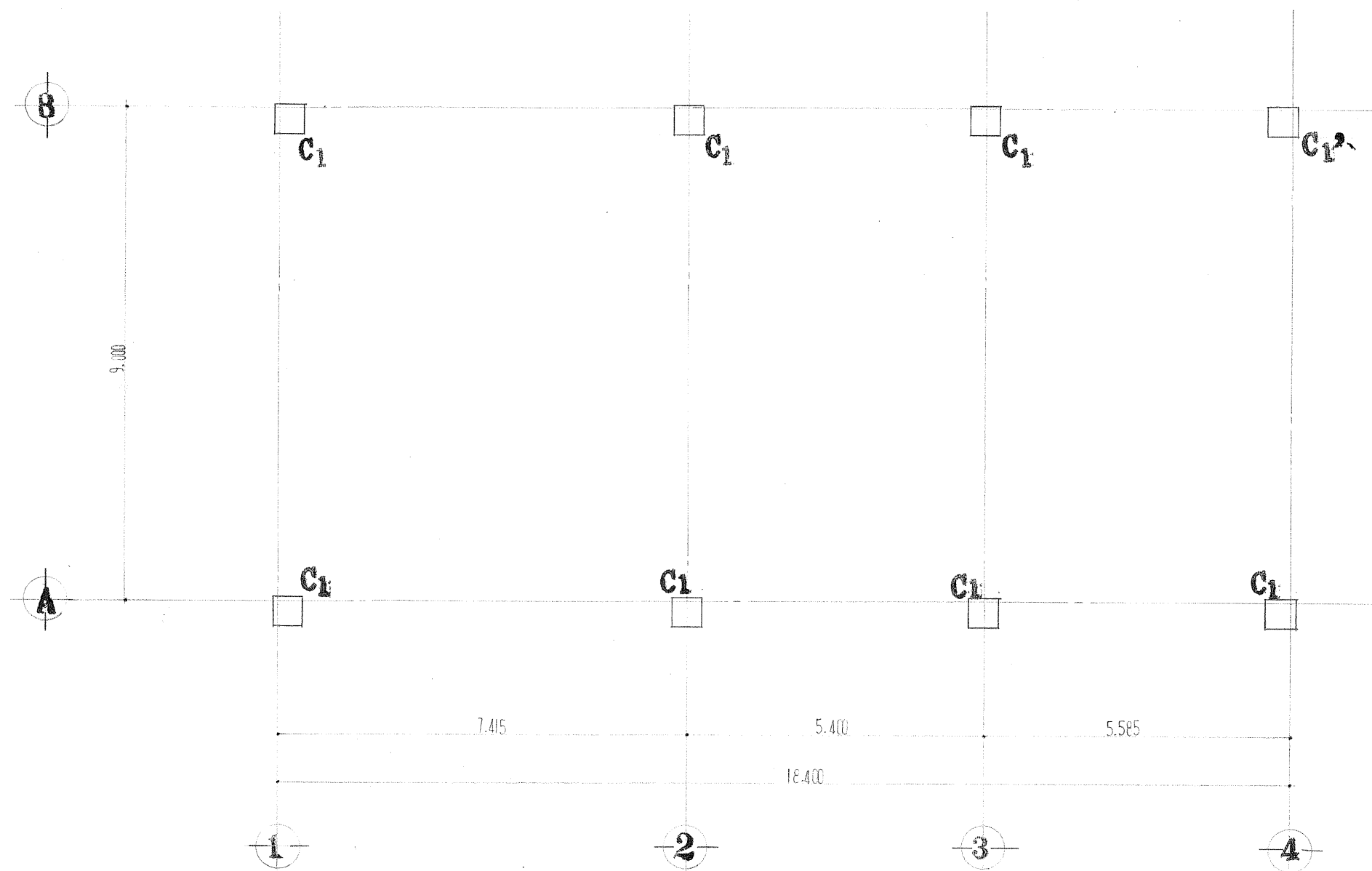


長辺方向

KS₁ 配筋図 s=1:30

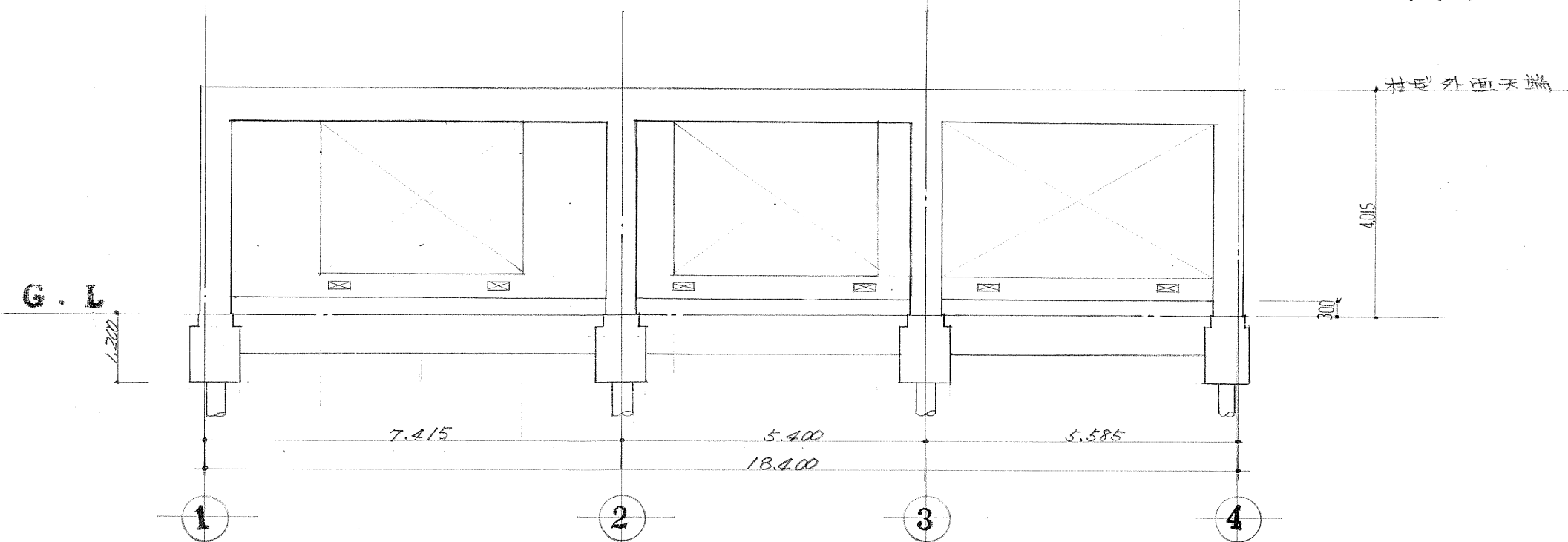


註記 当出し寸法は家伏図参照。

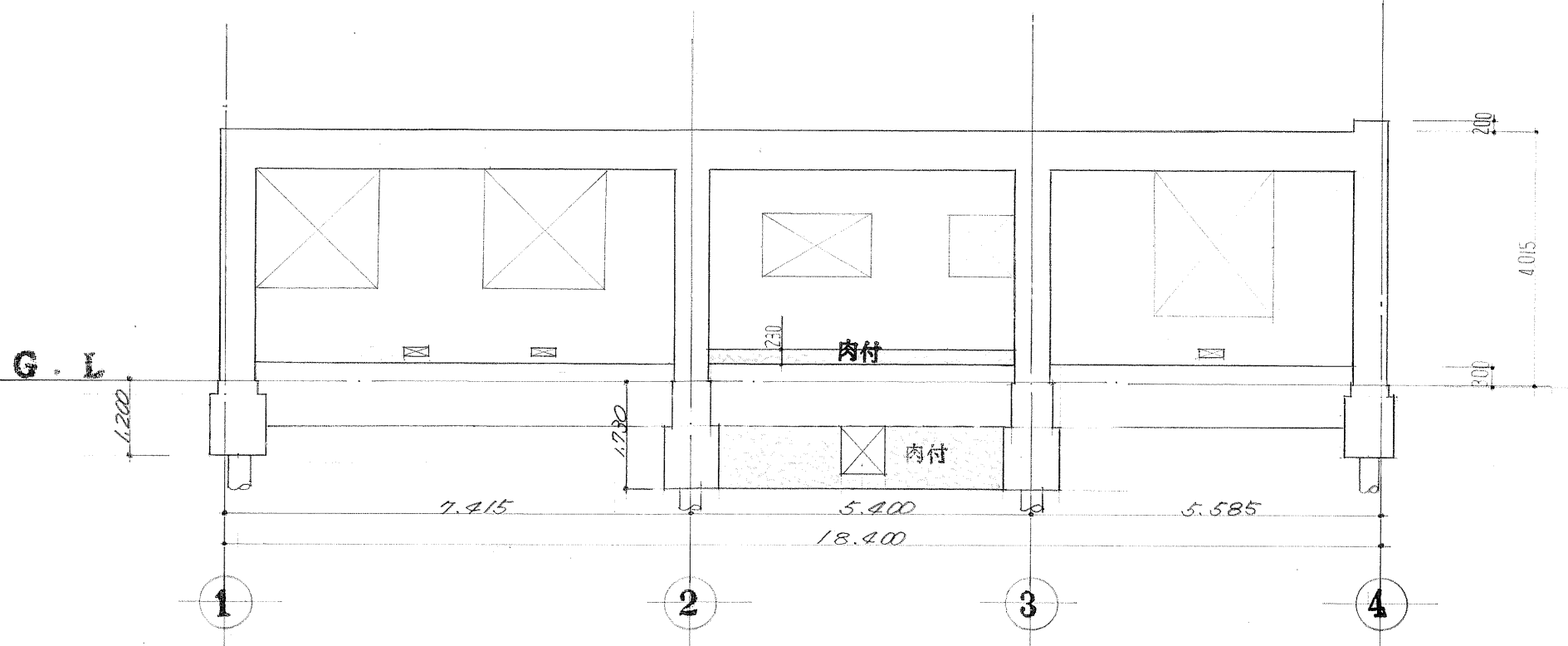


柱伏図 s=1:100

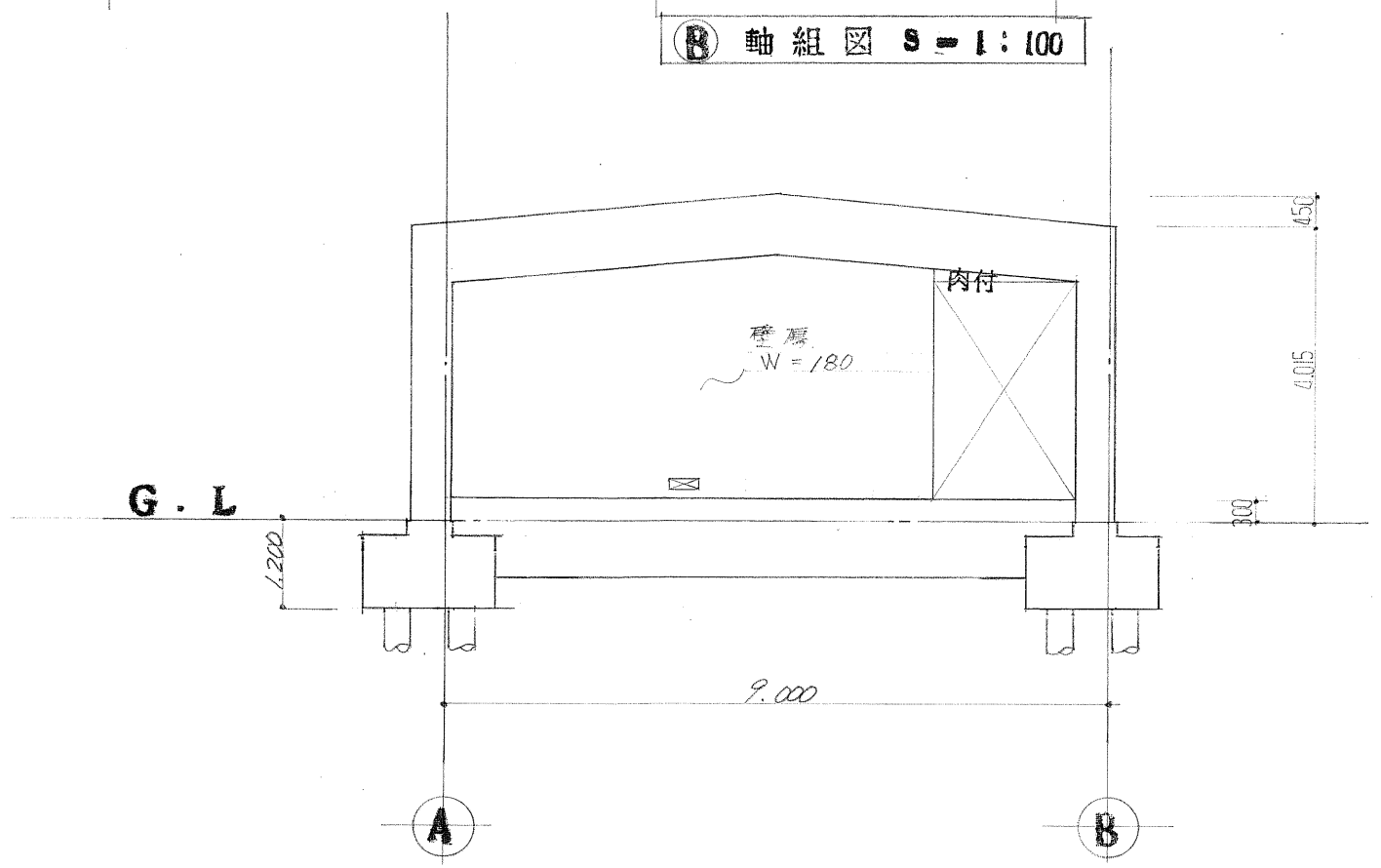
海老川老人福祉センター(Ⅱ型)新築工事			
構造図	柱伏図・柱断面リスト	スラブ配筋	
DATE /	SCALE	s=1:100	SHEET NO B-6
A. S. A. 設計事務所		ARCHITECTS OF SPATIAL ACCOR TEL22-5797(代)22-5798	
一級建築士登録第 31354 号	田中健志	DRAWN BY	CHECKED BY



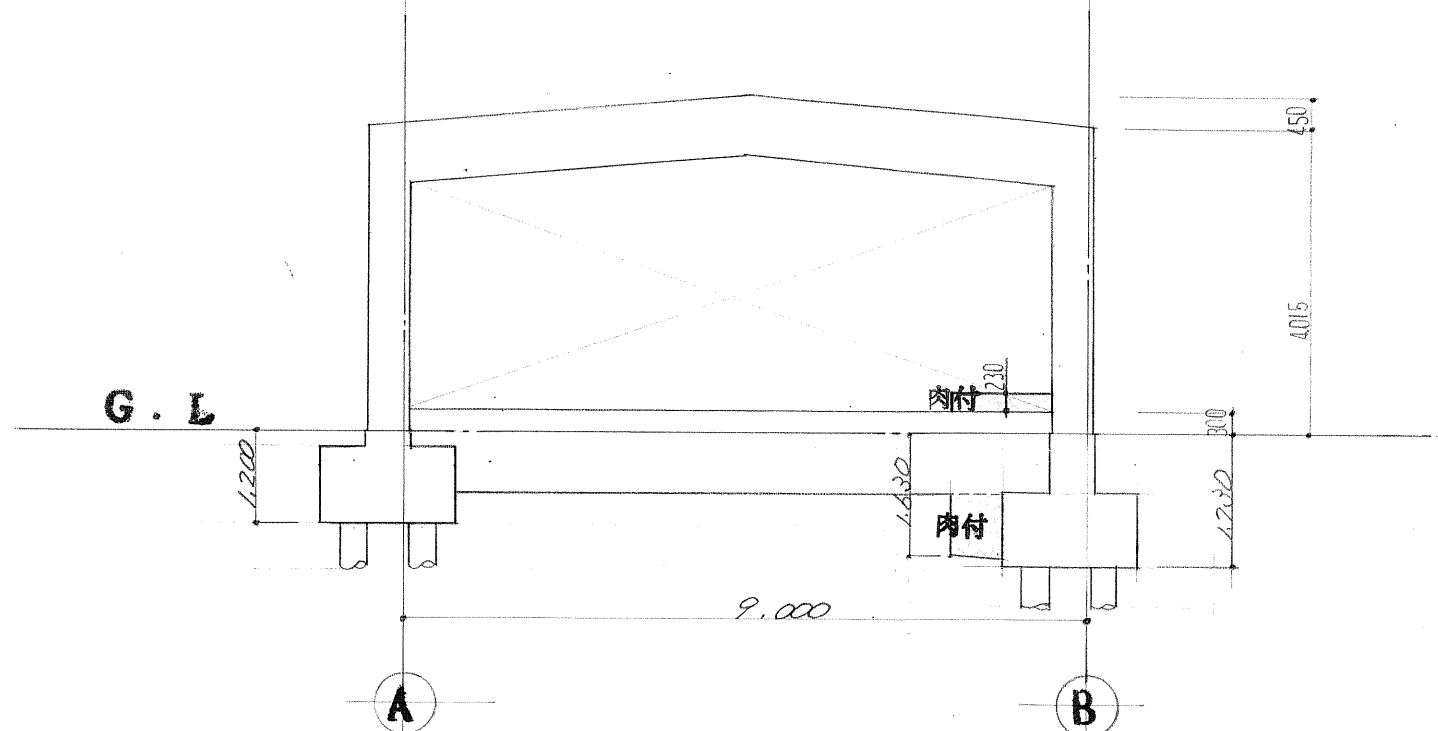
① 軸組図 S=1:100



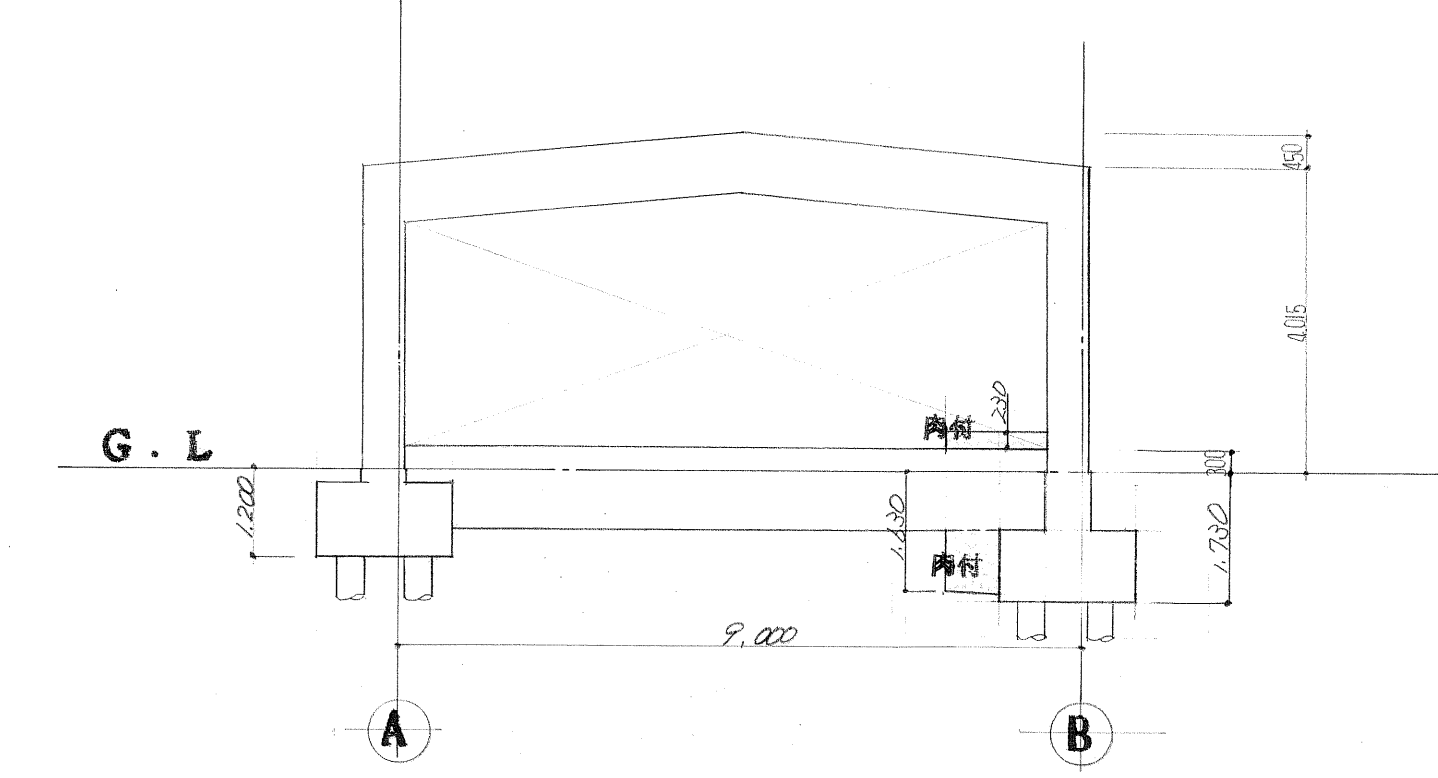
② 軸組図 S=1:100



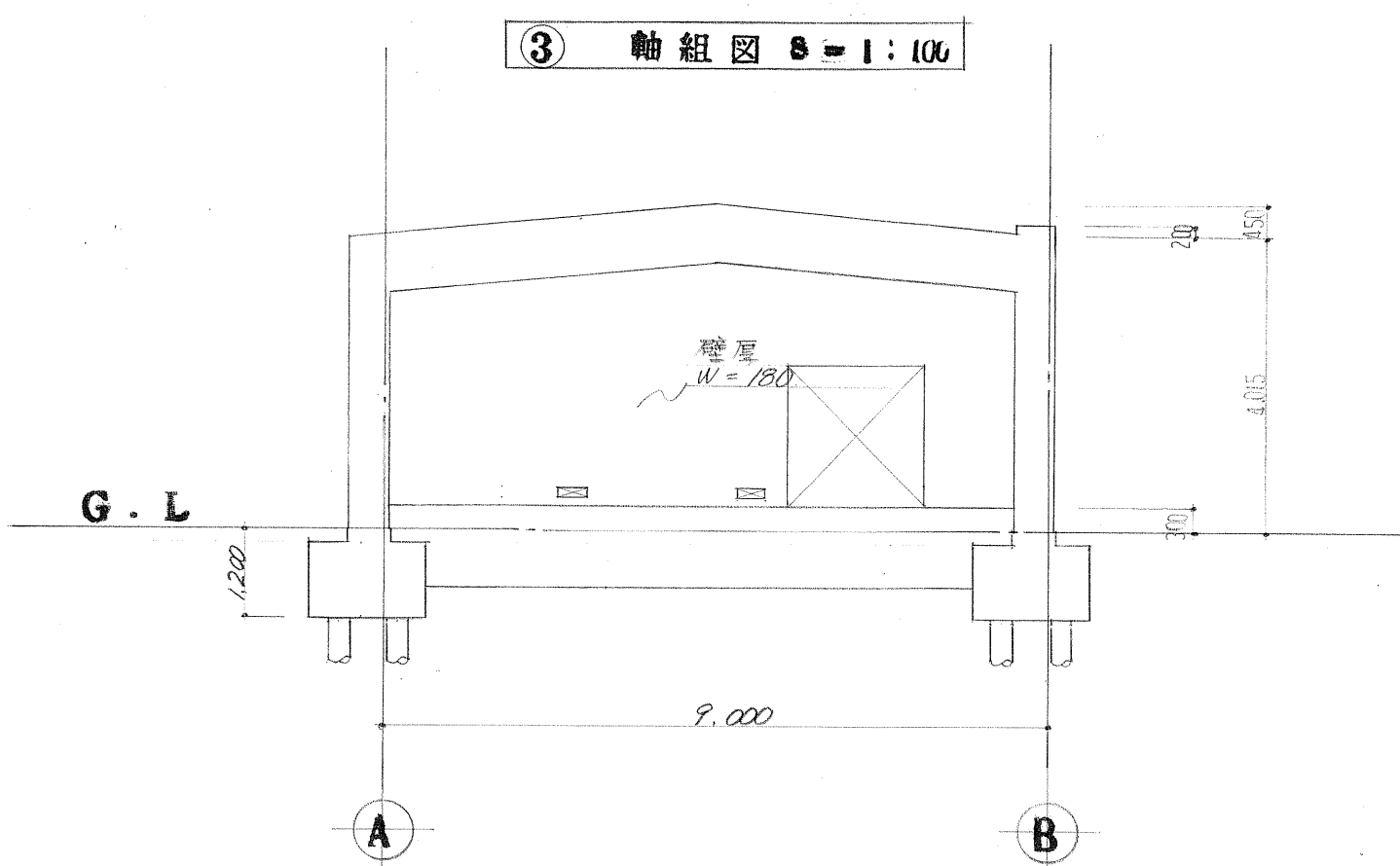
③ 軸組図 S=1:100



④ 軸組図 S=1:100

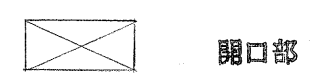


⑤ 軸組図 S=1:100



⑥ 軸組図 S=1:100

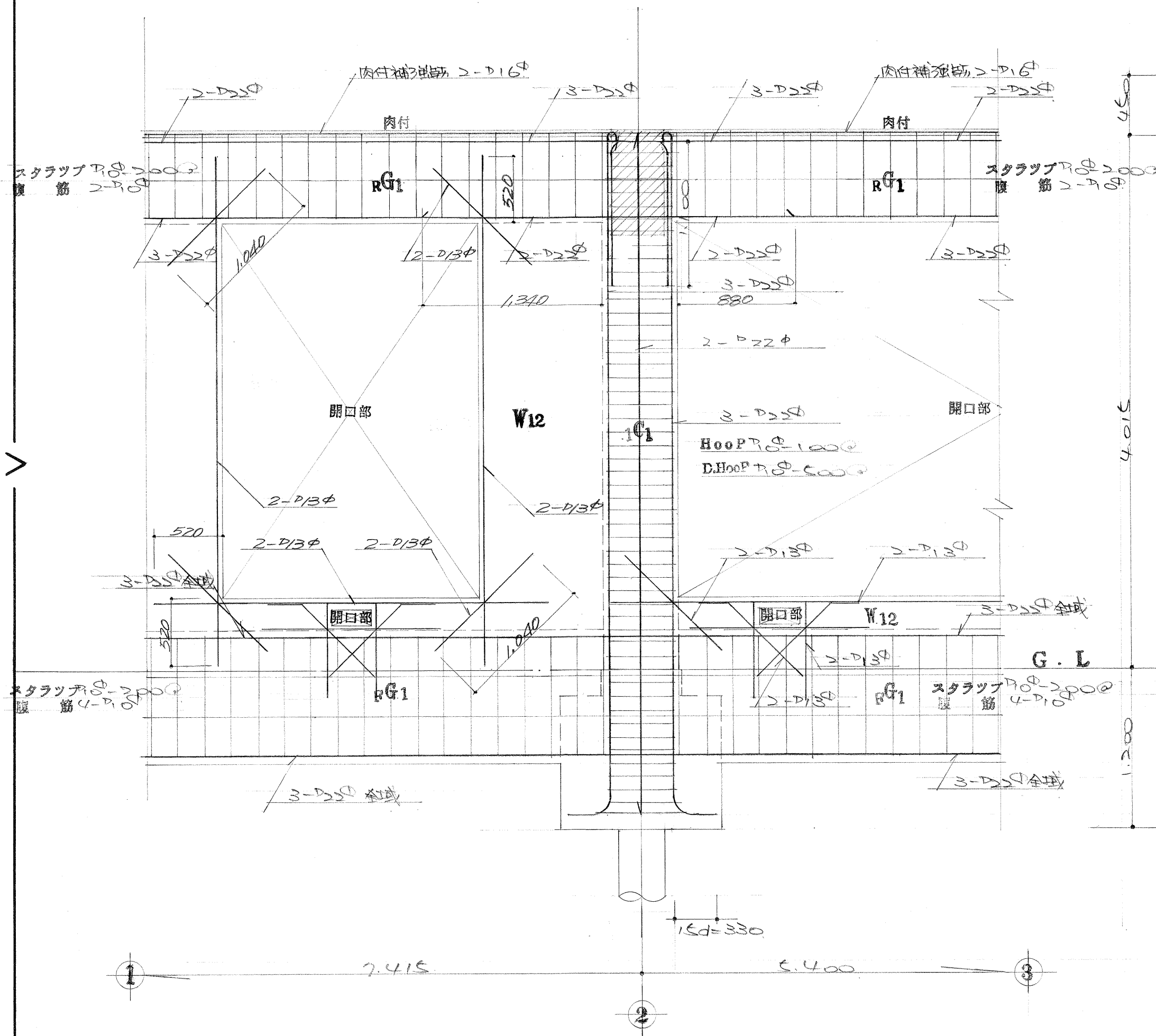
凡例



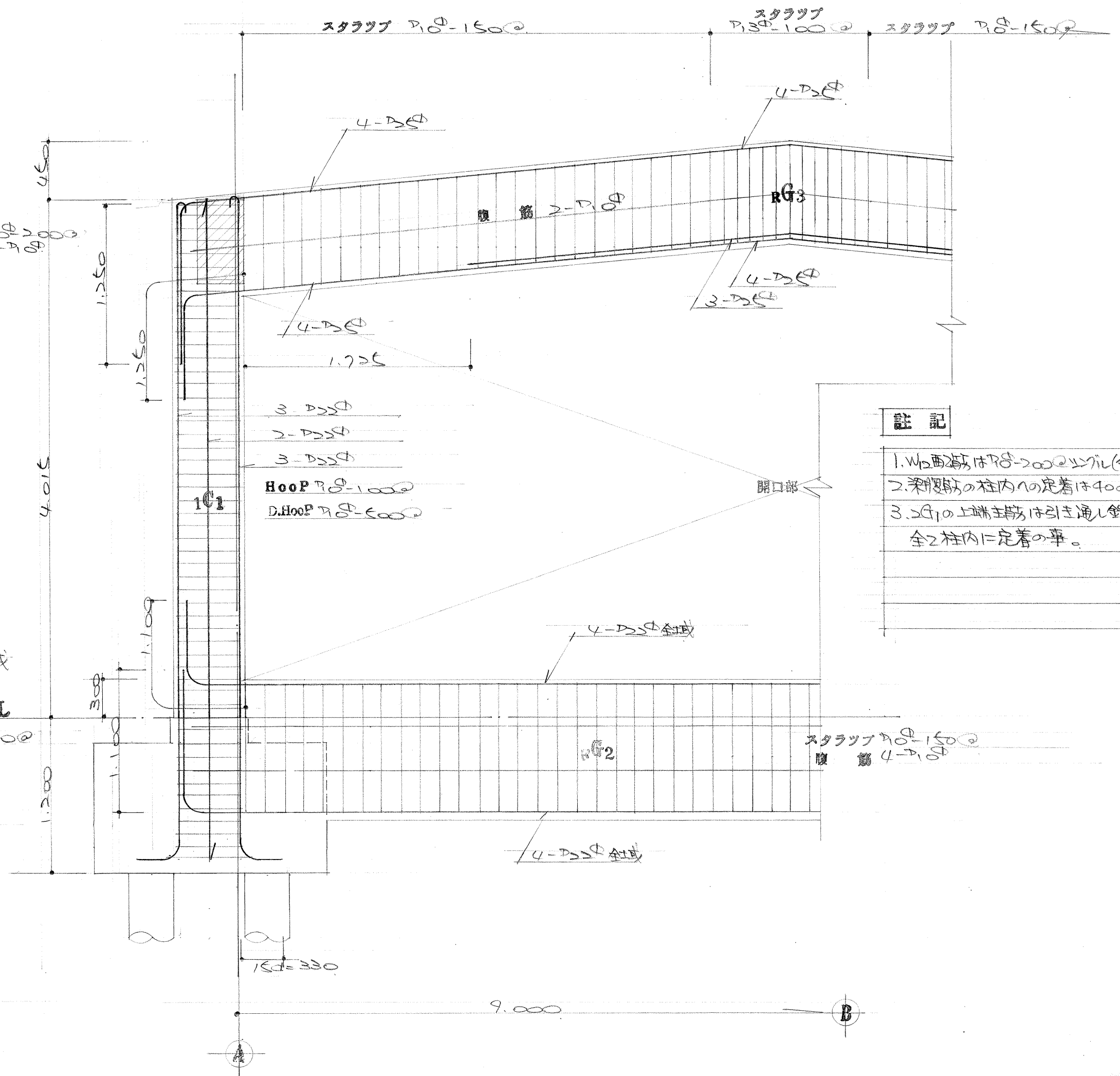
註記

1. 特記なき壁厚は $W=120\%$ とする。
2. 梁内付配筋は構造荷記仕様配筋による。
3. 梁の水勾配による勾配内付は軸組図に記載なきもラーション図に準じ行なう事。

新老川老人福祉センター(B型) 新築工事			
構造図	軸組図		
DATE /	SCALE S=1:100	SHEET NO B-1	
A. S. A. 設計事務所			
ARCHITECTS OF SPATIAL ACCOR TEL22-5797(代)22-5798			
一級建築士登録第 31354号			
田中健志	DRAWN BY	CHECKED BY	



A 通りラーメン図 s=1:30



B 通りラーメン図 s=1:30

註記

1. W12の筋はφ8-200mmピッチ(95mm)とする。
2. 梁筋の柱内への定着は40d以上とする。
3. RC1の上端主筋は引き通し鉄筋以外全2柱内に定着の事。

新老川老人福祉センター (B型) 新築工事

構造図 ラーメン図 (老人福祉センター)
DATE / SCALE 1/30 SHEET NO B-8

A. S. A. 設計事務所
ARCHITECTS OF SPATIAL ACCOR TEL22-5797(代)22-5798

一級建築士登録第 31354号
田中健志 DRAWN BY CHECKED BY